

なにわ区

【第8回】日東地域

かつての日東地域

区長 日東地域は日本橋筋を中心に発展してきました。**井上(恵)さん** 日本橋筋のあたりは昔、長町といわれていました。太閤秀吉が堺に行くためにおつくりになられたんです。その道がのちに紀州からの参勤交代の道に使われたんですね。その時、この長町のあたりに人足が求められ、交代で人足として雇われていました。宿屋が多い、旅籠(はたご)のまちでした。

その後、古書のまちになり、それから戦後、紳士服と家具のまちになりました。そのあと、電気屋のまちになり、現在の趣味のまちに変わっていきました。

日本橋の電気屋さんの始まりは上新電機です。名古屋相互銀行の隣に青果業を創業したのが始まりと聞いています。戦後、ここに真空管などを買いにきて、ラジオを家で組み立てるんです。そのため、材料を買いに来るところから電気屋さんが始まっていきました。

堀内さん 昔は高島屋の東横から松坂屋(今の高島屋東別館)、そして名呉橋の手前(今の阪神高速えびす町入口あたり)までぎっしりと電気関係の商品を扱う店が占めていたそうです。

区長 名呉橋の話が出ましたが、日東地域には昔、高津新川という川が流れていたそうですね。

吉田さん 川は今の高速道路の下を流れていました。私たちはその川を東横堀川と呼んでいました。

近藤さん 高津入堀川とも言われていましたね。

井上(恵)さん その川は西側で鮠(いたち)川とつながっていて、西横堀川に続いていきました。

堀内さん 高津入堀川に架かっていた橋の1つが堀川橋で、愛染橋とも言われていて、その橋の近くが、石井記念愛染園の発祥の地です。石井十次という方がそこに保育園と夜間学校をつくりました。

石井さんのよき理解者であった、倉敷紡績の社長の原孫三郎という方が、それらを引き継いで愛染園を設立し、1937(昭和12)年には病院も開設されました。

深堀り 児童福祉の父 石井十次

明治期の急激な近代化は、国家興隆だけでなく多くの社会的困窮者を生み、その救済にあたった篤志家の1人が石井十次です。石井は、児童を孤児院で養育するより、家庭で養育することが優れていると考え、1909(明治42)年、愛染橋西詰の製材所跡地に大阪で初めての保育所、愛染橋保育所、愛染橋夜学校を設けるとともに、日本橋5丁目に日本橋同館を開館し、無料職業紹介、宿泊施設、往診、試業、困窮者の保護などを行い、児童を取り巻く家庭や地域社会の環境整備を行いました。



写真:石井記念友愛社ホームページより

吉田さん 木津川の方から丸太を組んだイカダが流れていました。1948、1949(昭和23、4)年頃まで、そういう風景が見られました。

井上(恵)さん 1965(昭和40)年頃までは材木屋さんもたくさん残っていました。

田中さん 今の阪神高速えびす町入口周辺に、たくさんありましたね。

軍艦アパート

田中さん 明治の内国勧業博覧会を機に、最先端の公営アパートが建てられて、きれいなまちになったと聞いています。

堀内さん 1937(昭和12)年に秩父宮殿下が「軍艦アパート」を視察しに来ています。完成した後に見に来ているので、1935(昭和10)年頃にできたんじゃないかと思います。その碑が今もあります。

当時は鉄筋3階建てで、各家に水洗便所がついた画期的な住宅でしたので、とても有名だったらしいです。



【参加者】(後列左から)井上 恵津子さん、黒田 ふみ子さん、水口 博司さん、堀内 勲さん、合邦社閻魔堂 近藤 尚義さん (前列左から)吉田 和史さん、井上 猛さん、幡多区長、田中一彦さん

1945(昭和20)年3月の大空襲の時にもある程度、焼け残ったようですね。

近藤さん 軍艦アパートには戦後、香港の九龍城のセットに似ているからといって、映画を撮りに来た人がいました。その頃は、ちょっとスラムをイメージするような、香港映画のような雰囲気がありましたからね。

深堀り 軍艦アパート

明治中期以降の産業・経済の急速な発展による大都市への人口集中は、住環境の悪化などを招き、大正期には社会問題としてますます深刻化しました。そのため、不良住宅地区改良法が1927(昭和2)年に施行され、これにより1929年(昭和4)年から1933年(昭和8)年にかけて鉄筋コンクリート造の今宮住宅、下寺住宅、北日東住宅、南日東住宅ができました。これらはいずれも、ガス・水道・水洗便所・ダストシュートなど充実した設備を備えた時代の先端をいくものでした。密集住宅地区に突如現れた巨大な白い鉄筋コンクリート造の集合住宅は、人々の注目を集め、屋上の煙突がまどからの煙を吹き出す姿から「軍艦アパート」と呼ばれていました。



「日東市営住宅記念碑」昭和12年2月に秩父宮殿下が視察に来られた記念に建てられた碑 ※参照:「浪速区懐かし風景画」より

区長 このまちの戦時中は、どんな様子だったのでしょうか。

井上(猛)さん 戦時中、堺筋の西側、今の日本橋4丁目、5丁目あたりですが、そこを飛行場にするとというので立ち退きをさせられて、広い空き地になりました。1945(昭和20)年3月の大空襲の時はそこに神棚とニワトリだけ持って逃げ、疎開先にもそのニワトリを連れて行きました。そうしたら卵をたくさん生んでくれて、とても助かったと聞きました。一緒に持ち出した神棚は今でも家に祀っています。

下寺 町名の由来

区長 日東地域の東側は下寺という地名です。

黒田さん 私は1976(昭和51)年に結婚して、下寺1丁目にあるマンションに引っ越してきました。そのマンションが建つ前はお寺だったそうです。

堀内さん 今も松屋町筋の東側はお寺が多くありますが、昔は両側にたくさんのお寺があったそうです。民家よりも寺の方が多かったと聞いています。

区長 松屋町筋が天王寺区との区堺(さかい)になっていて、浪速区側は「下寺」、天王寺側が「下寺町」なんです。

井上(恵)さん 下寺の地名は、浪速区側は「しもでら」、天王寺区側は「したでら」と言うんです。

区長 そもそもなぜ「下寺」と言うんでしょうか。

田中さん 昔、このあたりは海岸だったんです。上町台地から下りる地形になっていました。下寺にはお寺がたくさんありましたが、四天王寺から下ってきたところにあったので、そう呼ばれたのではないのでしょうか。

年末に活躍した「ちんつき屋」

区長 水口さんは、今はない、昔の思い出はありますか。

水口さん 年末になると「ちんつき」という看板が出まして、子ども心に「何のことかな?」と思っていました。

井上(猛)さん 「貰(ちん)」というのはお金のことです。正月には家で餅をつきましたが、臼(うす)がない家は「ちんつき屋」についてもらいます。

吉田さん その家の近くの道路上で「ちんつき」をやってもらっているので、その時期になると4、5人でそういう家を順番にまわっていました。

廣田神社と合邦社閻魔堂(がっぽうがつじ えんまどう)

区長 日東地域の名所・旧跡のことも教えてください。

田中さん 廣田神社は今の堺筋、昔の紀州街道の中核でした。

深堀り 廣田神社(日本橋西2丁目4番)

もと天王寺の鎮守で今宮村の産土神(うぶすなのかみ)ですが創建年代は不詳です。古い由緒を持つとともに江戸時代には廣田の社といわれ、うっそうとした森のなかに社がありました。当時は境内も広く、紅白2種の萩を植えた茶店があって、萩の茶屋と呼ばれていたといわれています。桜の木も多く美しい社であったとのこと。無病息災・痔疾をはじめ難病治療にご利益があり、アカエイ(関西ではアカエイ)を神使とするユニークな神社で、叡知の「エイ」に通じることから合格・必勝の祈願をかなえるといわれ、広く信仰されています。



「広田社雪景(写真浪花百景 上編 中編)」大阪市立図書館デジタルアーカイブより

由緒あるお宮さんで、社域は今の浪速小学校のあたりから住吉大社までと広がったんです。萩の名所として有名で、紅白の萩が植えられていたそうです。**堀内さん** 合邦社の閻魔堂もありました。聖徳太子の開基と伝えられています。浄瑠璃や芝居の主役を務める人はそこに挨拶に行ったそうです。

地域に寄せる思い

区長 では最後に、日東地域への思いや期待について、お伺いできればと思います。

黒田さん 私はふれあい喫茶や食事サービスの活動をしていて、これからもできる限り、地域の皆さまを見

守っていきたいです。**水口さん** 私は地域のお手伝いをちょこちょこさせていただいているんですけど、お母さん方の気配りや温かさをとても感じます。本当に心温まる地域です。**堀内さん** この頃、地域の行事に参加させてもらうようになりましたが、子どもたちが参加できる行事を1つでも増やしていきたいと思っています。そうすることで、日東地域に集まろうという子どもたちが増えてくれたら、将来、もっとこの地域が発展するんじゃないかと期待しています。

田中さん 昔は自分の持ち家で商売をしていましたが、今はテナントが商売をするので、まちの様子が目まぐるしく変化します。安全安心のための取組みも、しっ

かりと進めていかなければならないと思っています。浪速小学校は浪速区以外からも通学する小中一貫校で、教育の充実をアピールできると思います。また、日本橋5丁目に建築中のホテルはロイヤルホテルが運営するそうです。伝統ある地域のイベントをどんどん行うことで、「良いところで育ったな」と子どもたちに思ってもらえる足がかりもできてきました。日東地域の見通しは明るいと思っています。

日東地域 年表

1889 (明治22年)	● 大阪市制発足、日本橋筋は大阪市南区の一部となる
1897 (明治30年)	● 第1次市域拡張。今宮村、天王寺村の一部を市域に編入
1898 (明治31年)	● 高津入堀川・鮠(いたち)川連絡工事完成
1908 (明治41年)	● 市電南北線(梅田-恵美須町)開通
1909 (明治42年)	● 石井十次氏が愛染橋のそばに大阪市内で初めての保育所を開設
1924 (大正13年)	● 天王寺第九尋常小学校創立(のちの日東小学校)
1937 (昭和12年)	● 秩父宮殿下が改良住宅を視察、愛染橋病院開院
1943 (昭和18年)	● 大阪市22区制により現浪速区(日東地域全域が浪速区に)
1945 (昭和20年)	● 爆撃により区域の約93%が消失、終戦
1948 (昭和23年)	● 浪速警察署設置
1957 (昭和32年)	● 高津入堀川埋立開始(～昭和39年に完了)
1966 (昭和41年)	● 市電南北線のうち日本橋筋3丁目-恵美須町間廃止
1969 (昭和44年)	● 地下鉄堺筋線(天神橋筋6丁目-動物園前)開通
1975 (昭和50年)	● 浪速区老人福祉センター開館
1991 (平成 3年)	● 戦災復興土地地区画整理事業が完了
1993 (平成 5年)	● 地下鉄堺筋線(動物園前-天下茶屋)開通
2005 (平成17年)	● 第1回 日本橋ストリートフェスタ開催
2017 (平成29年)	● 日本橋小学校・恵美小学校・日東小学校を閉校し、浪速小学校開校、「日本橋小中一貫校」として小中一貫教育開始
2024 (令和 6年)	● もと日東小学校に心和中学校開校

浪速区制100周年記念事業

～浪速区の生い立ちを振り返ります～ vol.3

足利時代には、低地帯の陸地化も進み、村落ができあがっていきました。応仁の乱(1467～1477)のころ、四国からの軍兵は堺に上陸し、大坂へ殺到しました。防御する軍も大坂を死守したため、当区一帯は決戦場となりました。四国軍にとって大坂を攻略するには、今宮・木津あたりはともよい足場となったようで、戦史の記録にたびたび登場しています。『細川両家記』には、本願寺が大坂石山城に移り、織田信長と不和を生じて戦いが起こったとき、信長の軍兵が天王寺から難波・今宮・木津にいたる一帯の地に陣を張ったと記されています。豊臣時代には当区付近の陸地化も完成し、堺筋から住吉・堺にいたる往来には「住吉街道」が発達に利用されるようになりました。敷津の浦辺に沿う海道は風景が良く、日本橋の南の方は一帯に松の木がうっ生して、人々はこの地を「那具の松原」と呼んで、春秋の遊び場所としていました。また、大坂城ではこの松原を城外の馬場として用い、松原の一部に枳殻(きこく=カラタチの別名)を植えたため、「枳殻の馬場」ともいわれていました。秀吉の死後、大坂落城(慶応19(1614)年)にいたるまでの80余年間の当区一帯は、戦乱の渦中に巻き込まれました。木津村は、木津川に沿った村落でしたが、このころの木津川は川幅が広がったので、特に一帯は兵略上重要視され、大小の要塞が造られました。大坂落城後は戦禍による被害もなく、当区一帯の地は純粋な農村として発展しました。

問合 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

なにわマニア話 vol.8

■横溝正史の母校・大阪薬学専門学校

名探偵・金田一耕助を主人公とする『獄門島』『八つ墓村』『犬神家の一族』などの推理小説で知られる作家・横溝正史(1902～1981)は神戸市東川崎の生まれですが、実家の生薬屋「春秋堂」を継ぐために大正13年(1924)、日本橋5丁目にあった大阪薬学専門学校へ入学しました。『横溝正史 自伝的随筆集』によると日本橋から実家の神戸まで千日前、道頓堀、心斎橋筋、堂島、梅田駅とずっと繁華街が続き、「私たち数名の神戸組は毎日のように南から北へとむかってカフェからカフェへと飲みながら北上」し、飲み代は薬師のドイツ語の教科書や参考書を古本屋に「叩き売って」工面したといっています。これだけ聞くと、まるで出来損ないの不良学生のように思われますが、じつは横溝は薬師を首席で卒業して驚かされます。この大阪薬学専門学校はのちに豊中に移転し、戦後に大阪大学医学部薬学科となりました。

案内人 むつさし 陸奥賢さん 観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験者

大正時代の大阪薬学専門学校 出典:『大阪大学五十年史』

問合 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270